UIFAニュース

発行　宇治市国際親善協会
事務局　〒611－8501　宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電　話　0774－22－3141（内線2058）　FAX　20－8776
Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp　ホームページ http://uifa.news.coocan.jp

第　81　号
平成30年（2018年）3月

各種講座を開催

9月から12月にかけて、各種講座を開催しました。
今年度は初めて「災害時の外国人サポート講座」を開催し、最終回には東宇治中学校で実施された宇治市防災訓練に参加しました。また、今年度も「日本語支援ボランティア養成講座」を開催し、多くの市民の方にご参加いただきました。さらに、小学生向けに「こども英会話」、大人向けに「初級～中級英会話」、「スペイン語講座」を開催しました。
各講座にアシスタントとしてご協力いただきました宇治国際交流クラブの方に講座の様子や感想をお寄せいただきました。

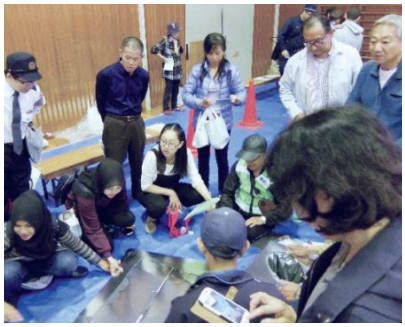
「災害時の外国人サポート講座」を終えて

地震や豪雨などの自然災害が相次ぎ、防災への対応の必要性が増している中、地域に暮らす外国人への情報提供やサポート方法について学ぶ場として、昨年9月15日から10月15日まで全5回にわたり、宇治市国際親善協会の主催で本講座が実施されました。

1回目は、宇治市危機管理課の長澤主任から、災害時の避難行動のために必要なこと、住民と地域の主体的な取り組みの重要性などが話されました。2回目は、城陽市国際交流協会事務局長の大久保氏から、熊本地震での外国人支援における避難所運営や、情報収集と多言語情報発信、相談体制等について説明があり、「災害時外国人支援」に関する受講生同士の意見交換の場も設けられました。3回目は、「やさしい日本語」有志の会の杉本氏から、災害時、外国人に正確な情報を伝えるためには「やさしい日本語」が重要とのお話があり、「簡単な言葉にする」などのルールを示されました。また災害時の「ボランティア・地域・外国人・行政」間のトラブルを軽減するため、日頃からのコミュニケーションの重要性を話されました。4回目は、受講生が日本語・英語・中国語・韓国語のグループに分かれ、避難所訓練に必要な資料作りをしました。

5回目の10月15日は、宇治市が主催した東宇治中学校での防災訓練に外国人とともに参加しました。受付で避難者名簿に登録後、外国人と共同で段ボールの簡易トイレとベッドの組み立てを体験しました。避難所運営上の訓練もあり、「届けられた緊急食が避難者数より少ない時、配分をどうするか？」「ペットを連れた避難者にどう対応するか？」という設問に対し議論がなされました。この場を通じ立場・年齢・性別等が異なる人がひざを交えて話し合う事の大切さを学びました。

避難所運営の三種の神器として、受付の設置、通路の確保、情報伝達用の掲示板があげられましたが、避難外国人にとっても多言語による掲示板が必要と思いました。また、参加した外国人から「体験型防災訓練に参加し学ぶことが多かった」という声もありました。



「日本語支援ボランティア養成講座」を開催

世界中の人々が地球規模で往来する「大交流時代」に入り、宇治市の在留外国人も、2,786人（法務省 2016年12月調査。在留資格：特別永住者、留学、技能実習、家族滞在等）となりました。急増する訪日旅行者の動向と相まって今後も着実に増えていくと思われます。外国籍住民が、生活者として安心して暮らしていける手助けをするため、日本語学習を支援する宇治国際交流クラブの日本語教室や菟道ふれあいセンターを拠点としたスピーク・サロンによる地道なボランティア活動があります。宇治市国際親善協会では、それらの活動を支援するため、昨年10月から８回にわたる「日本語支援ボランティア養成講座」を実施しました。今年で４年目ですが、定員を上回る24名の受講生が参加され、熱気あふれる講座となり、市民の関心の高さを感じました。

講師の方々からは、多様な経験を踏まえ、受講生に対し日本語教授法の伝授はもとより、「学習者が飽きないよう表情を見ながら教える」（浦野氏）、「学習者からエネルギーをもらえる。飛び込んで仲間になって下さい」（木村氏）、「学習者に発言させる。でないと話せるようにならない。教えながら自分も学んでいく」（坂牧氏）など、講師としての心構えについても意見が出ました。

最終講座では模擬授業を行いました。受講生が講師の立場になって実習し、これまで受講された成果を見事に発揮されていました。受講生のなかには、既に日本語教室やスピーク・サロンで実践体験している方もおられます。今後も本講座の実施が予定されていますので、多くの市民の方に受講していただきたいと思います。

こども英会話

マイク先生の Hi!! How are you today? の呼びかけに、元気でちょっとやんちゃな子供達の I'm good ！と会話をスタートさせる「こども英会話」の授業、今年で３年目をむかえました。ポール先生、ラッセル先生、マイク先生と、それぞれ個性の違う先生の指導の下、こども達はいろいろな英語活動に取り組んでいました。今年は、英単語の発音を覚えるだけでなく、ゲームを通じて、英語のスペルの学習にも取り組みました。Halloween の時期には、みんなでカボチャちょうちん（Jack-o'-lantern）を作り、手を動かしながら動作を伴う英単語を覚えました。ゲームは、いつもチームワークで取り組み、仲間と助け合いながら地域を越えたお友達を作りました。１～３年生の低学年コース、４～６年生の高学年コースはそれぞれ８名ずつの小さなクラスで、アシスタントも付き先生の目が行き届く中で、有意義で楽しく英会話を学びました。もっともっと多くのキッズがこのクラスに参加して、これからのグローバル社会で大活躍ができるようになることを願っています。

語学講座　英会話

今年の英会話は全８回で開催し、初級～中級クラスということもあり沢山の方々にご参加頂きました。宇治市の AET（英語指導助手）のお二人が講師を務めて下さいました。前半４回はデヴィンさん、後半４回はアマンダさんにそれぞれ担当して頂きました。１回目は先生も受講者の皆さんも少し緊張気味でしたが、回を重ねるごとに慣れて楽しいクラスになりました。先生方は日本語を話されますが、あえてゆっくりの英語を使い国内ではなかなか体験できない英語ワールドを見せて下さいました。先生の趣味、家族、ペット、日本に来てびっくりした話などから授業が始まり、次に課題を決め５～６人のグループに分かれ英語で話し合い、最後に一人一人簡単に発表をしました。もちろん日本語での質問は OK ですが、解りやすい英語で答えて下さるので、次第にネイテイブの英語にも慣れて良い雰囲気になりました。参加者は意欲的な方ばかりで、上手な方が多かったと思います。初級の方は少し難しい授業で、分らない事も多々あったと思いますが、雰囲気はつかんで頂けたと思います。出席率は抜群で皆様の関心の深さを感じました。

「スペイン語初級講座」に寄せて

「オーラ！ケタール？」（やー！元気？）に始まるいつもの明るい授業風景。受講生９人に、講師はスペイン語圏のペルーのルイスさんとメキシコのイレーネさん、アシスタントの田中氏の３人。

受講の動機は「ラテンドラマに魅せられて」「フラメンコを学びたくて」「若い頃に旅したスペインに憧れて」「メキシコで仕事をする子供を訪ねたい」と、様々ですが明確です。それだけに皆さんの学習意欲は強く熱心に講師の発音を聞き取り、リピート。質問も活発で、授業はいつも笑いが絶えず盛り上がっていました。

難問は宿題ですが、翌週の授業開始前、一人一人の受講生の横について講師が順次答え合わせをされるなど、まさに個別指導レベル。皆さんの意欲を掻き立てます。

講師の指導により、受講生の皆さんにとってはスペイン語学習の継続と次のステップに進む動機付けとなり、有意義な講座であったと思います。

「中国・福建省を訪問して」 厦門～福清～福洲

宇治市日本中国友好協会　矢　野　友次郎

2017年（平成29年）は、日中国交正常化45周年、隠元禅師345回忌の記念の年で、宇治市日中友好協会の活動計画により11月23日から28日の日程で「福建省」を友好訪問した。前号で記載の「インゲン豆を伝えた隠元禅師と黄檗宗大本山萬福寺」と題した講演会が効を奏したのか応募で24名の参加を得ての訪問団である。

福建省を故郷とする隠元禅師は、徳川幕府の度重なる招聘によって、1654年に来朝された。その渡来の際には、美術・建築・印刷・煎茶・隠元豆等の食材を日本にもたらされ、当時の江戸時代の文化や日常生活全般に大きな影響を与えたとされている。中国明朝時代の文化水準は高く「黄檗文化」とされ、中国内で黄檗文化の研究がされている。2017年4月に福清市の張市長等が来宇され、宇治市とは隠元禅師の古い縁があり友好交流を図りたいとのこと。７月には福清市黄檗文化促進会の主催により、福建省の暮らしや風景写真、蒔絵の展示会が開催された。そして、中国在大阪総領事館もこの訪問に大きな期待を寄せられ、ご指導も頂いた。

関空より３時間弱で厦門に到着。この訪問にお誘いした、中国は初めてと言う方が「ここが中国ですか」と高層ビルが乱立する厦門の町並みに驚かれた。町やトイレが汚く、衛生面が心配なのではないかと思っていた中国の印象が一変したと、しきりにカメラのシャッターを切られ、中華料理を満喫された。

世界遺産の“華安土楼”や洋上の楽園「コロンス島」、アヘン戦争遺構等を巡り、福清市に入った。顔馴染みのある黄檗文化促進会の皆さんの歓迎を受け、福清市の頼家洪副市長を交えて「お茶交流セレモニー」が開催された。ここ福建省は中国茶の本場である。チャイナドレスの４人の高校生が、音楽に合わせ踊るかの様にお茶を点てられ、運ばれてきたお茶は香ばしく、ペットボトルの烏龍茶しか飲んだことのない小生は、その美しさと緊張で茶器を持つ手が震えた。

そして宇治のお茶の番だ。訪問団は、観光協会にお借りした宇治茶宣伝用の幟を立てて、法被をはおり、ＢＧＭは宇治茶音頭で、全員が宇治茶のおもてなし。抹茶は観光協会専務が点て、煎茶はお茶のインストラクターの方が淹れ、、抹茶と煎茶の両面から宇治茶スタイルの体験をして頂いた。和気藹々のお茶交流は中国新聞のネットに発信され、翌日福州市で「あなた見たよ」と言われたのには驚いた。福清市の夜は更け、頼副市長は改めて「来訪を心から歓迎します。国と国には多少の課題はあるが、市民同士は友好交流を進め、歴史的に宇治市とは関係が有る。お互いに努力しよう」と挨拶された。訪問団を代表し「歓迎に

感謝します。この会場の雰囲気を持ち帰り市や市民に報告します」と礼を述べ、握手を交わした。

宇治市の観光アピールに応じて６つの旅行社が来られ、興味を示された。福清市の黄檗山萬福寺は残念ながら復興工事中だったが、力強い槌音が響き、そう遠くない時期に、宇治に劣らない立派なお寺に生まれ変わるだろう。そう願いつつ福清を後にした。

福州市は福建省の省都で、日本の高名な人や高僧が訪れている。海のシルクロードの起点だ。丁度この時に「一帯一路」に経済界が協力すると安倍首相が表明したニュースが飛び込み、事務的な打合せが福州市で開催されるとのこと。古い町並みが保存され、一方で新しいビル群やスーパーと交通網の整備が課題と聞く。通年は温暖な気候なのだが、この時は日本と同じく寒い11月で気候の異変はここにも及んでいた。

帰国した後、東京上野動物園でジャイアントパンダのシャンシャン母子が一般公開され、シャンシャンの愛くるしさは多くの人を癒し、連日超満員とテレビや新聞が報じた。まさに中国の友好大使である。日本人の中国好感度が30%上がり、中国人の日本好感度も19%アップした。

この訪問が中国福建省との民間交流の礎となり、長い歴史が実感できる５泊６日の旅だった。

5月12日　国際交流講演会を開催

『南米パラグアイ国で軍事政変（クーデター）に遭遇して』

～戦争を知らない世代の戦争体験～

講　師　須河　正博さん
日　時　平成30年5月12日（土）
14:00～15:20
定　員　先着 70 人　　**参加費　無　料**

※宇治市国際親善協会員以外の方もご参加いただけます。
お誘いあわせのうえご参加ください。
※講演会終了後、宇治市国際親善協会総会を行います。

平成30年度宇治市国際親善協会総会を 5月12日（土）、宇治市生涯学習センターで開催します。総会開催前に、恒例の「国際交流講演会」を開催します。

今回は、宇治市内の中学校で校長先生としてご活躍されていた須河正博さんに『南米パラグアイ国で軍事政変（クーデター）に遭遇して』～戦争を知らない世代の戦争体験～をテーマに講演していただきます。

須河さんは約30年前にパラグアイにあるアスンシオン日本人学校に教師として赴任されました。その時に遭遇されたクーデターのお話を中心に日本人学校のことや海外での生活についてお話しいただきます。

雑観雑感

最近は、日本中何処に行っても海外の方を見かけることが多いです。特に観光地は多くの海外からの観光客が訪れます。中でもホテルや観光地でのマナーの悪さがとやかく言われています。先日、ホテルや旅館の浴場に置いてあるヘアリキッドやヘアトニックなどのアメニティグッズの蓋が緩くて閉まらないで困るという話をしたところ、あれは、持ち出されないようにわざと閉まらないようにしてあるということでした。旅館やホテルの自衛策でしょうが、宿泊客にこれらの物は持ち出せませんよと解ってもらえるような方法が他にないのかなあと思います。日本人が宿泊する時と同じような説明しかしていないのではと思ったりもします。外国のお客さんには、宿泊時の事前の説明の時に持って行ってもかまわないものと持ちだしてはいけないものとをはっきり伝えることや、団体旅行なら添乗員の方を通じてはっきりと伝えてもらうことも一つの方法ではないでしょうか。日本の常識にとらわれずに、海外からのお客さんの生活習慣や考え方の違いを理解した上でしっかりと説明し続けることが大切だと思っています。（Ｈ．Ｔ）